

1 患 者 情 報

(1) 平成 24 年のトピックス

ア 平成 24 年 風しんのまとめ

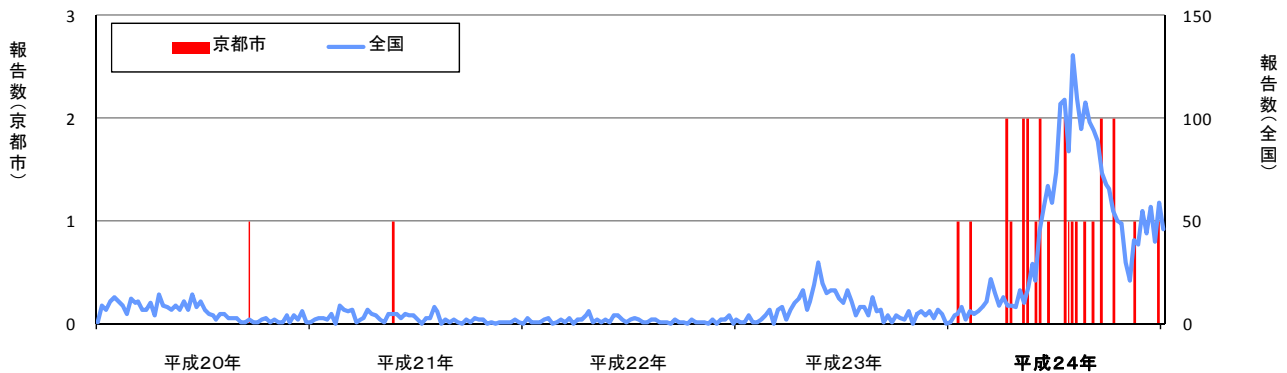
平成 24 年の年間報告数は 26 例で、非常に多かった。性別は、男性 17 例、女性 9 例で、性別年齢群別では、男性は 20 歳代及び 30 歳代(各 6 例)が最も多く、女性は 40 歳代(3 例)が最も多かった。

※風しんは、平成 20 年に全数把握疾患となった。

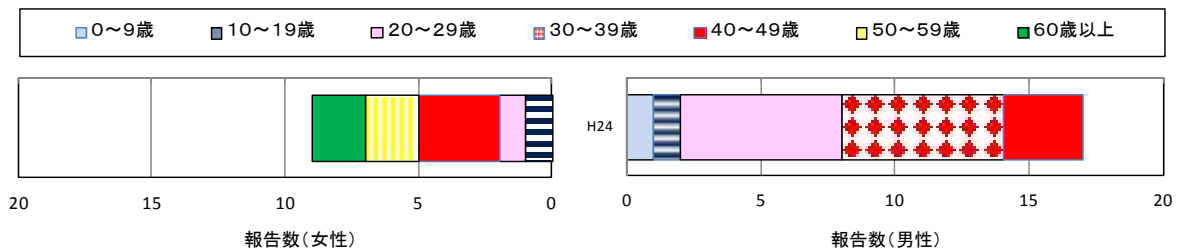
京都市及び全国の年次報告数

	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
京都市	1	1	0	0	26
全国	303	147	87	374	2391

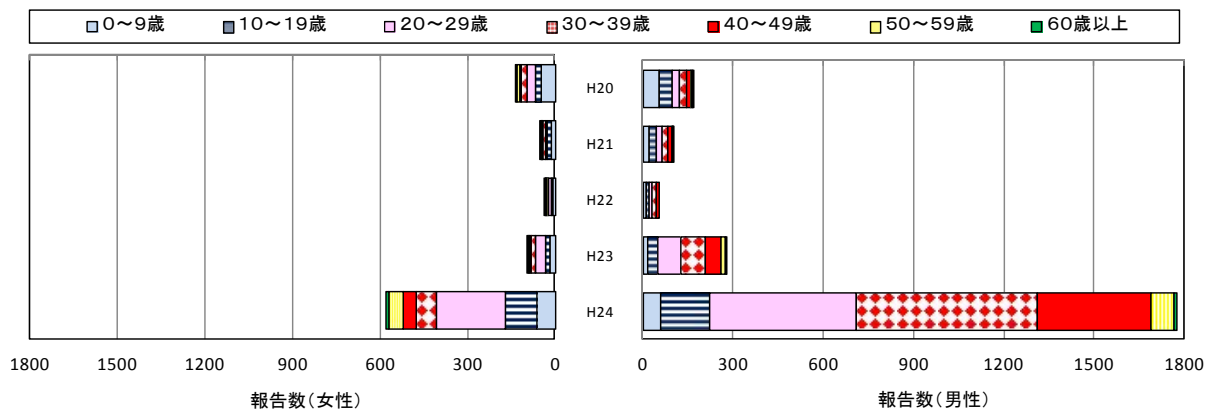
京都市及び全国の報告数の推移



京都市の性別年齢群別報告数



全国の性別年齢群別報告数の年次推移



イ 平成24年 インフルエンザのまとめ

(ア) インフルエンザの報告数

平成23年～平成24年シーズンの流行は、平成23年第51週（12月19日～12月25日）に定点当たり報告数が「1」を超えて流行期に入り、平成24年第5週（1月30日～2月5日）にピーク（38.89）を形成した。

また、その後、減少するものの、定点当たり報告数が「10」を下回ったのは、第13週（3月26日～4月1日）となり、「1」を下回ったのは第18週（4月30日～5月6日）であった。

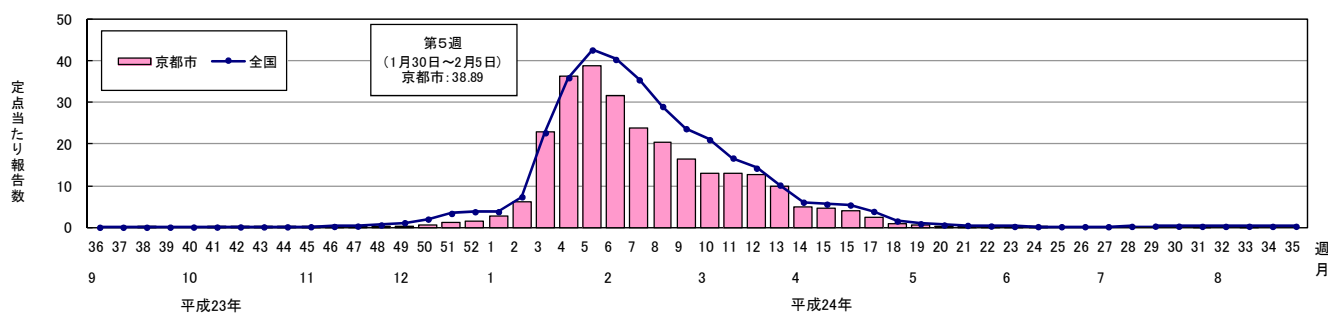
(イ) インフルエンザウイルスの型別

平成23年～平成24年シーズンに分離・検出されたインフルエンザウイルスの型は、ピークの第4週前後はA(H3)型が主であったが、その後減少しB型が主流となった。

(ウ) 年齢群別

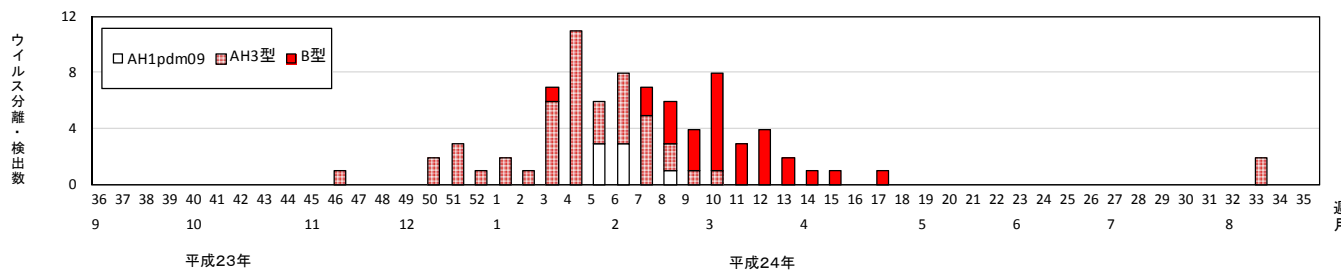
年齢群別割合は、平成23年～24年シーズンは、5～9歳（33.2%）、0～4歳（21.9%）、10～14歳（16.3%）の順で0～14歳が71.5%を占めた。

インフルエンザの定点当たり報告数の推移（平成23年～平成24年シーズン）

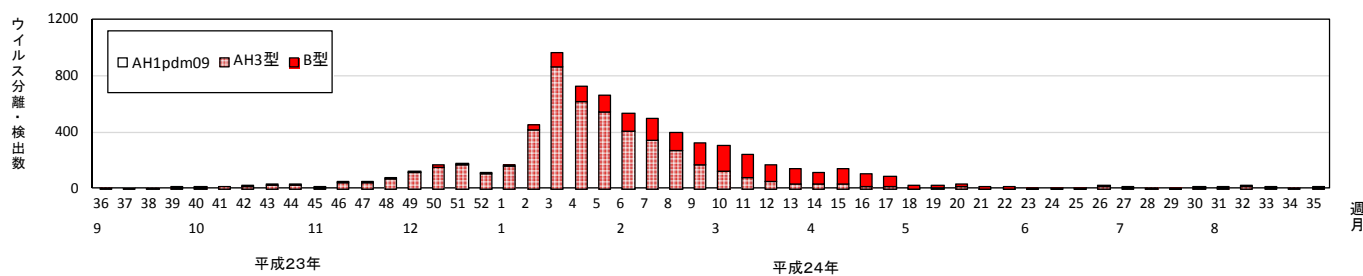


インフルエンザウイルス型別検出数（平成23年～平成24年シーズン）

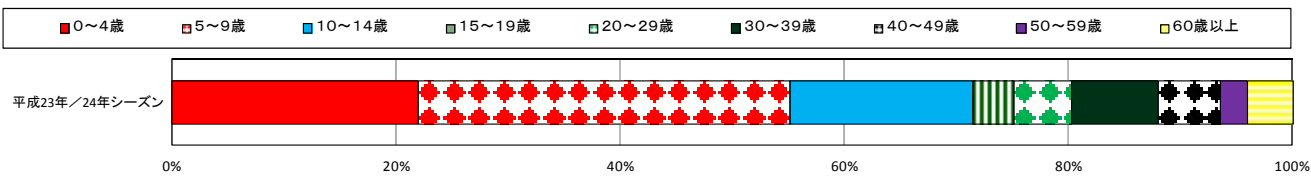
[京都市]



[全国]



京都市の年齢群別割合



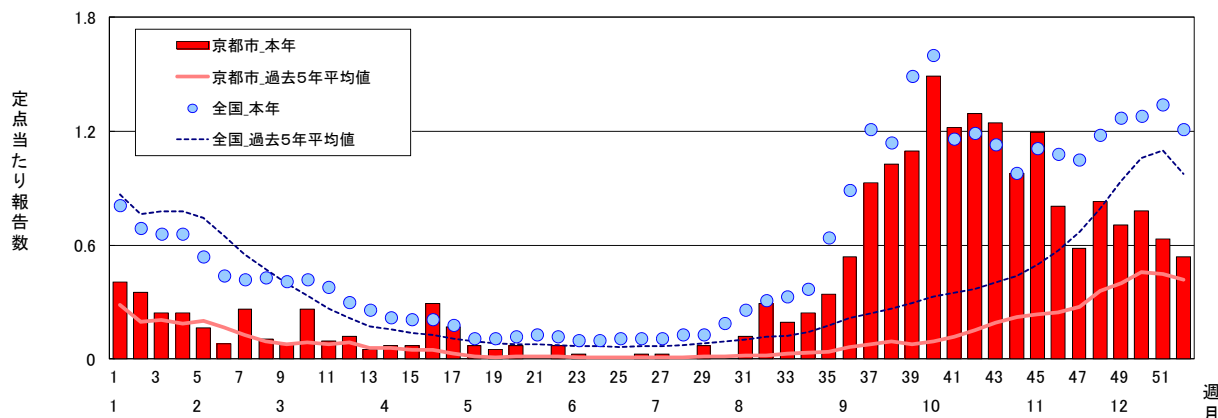
ウ 平成24年 RSウイルス感染症のまとめ

平成24年の定点当たり報告数は、第34週（8月20日～8月26日 0.24）以降、増加を続け、例年よりも早く、第40週（10月1日～10月7日 1.49）にピークとなった。このピークの定点当たり報告数は、定点把握対象に指定された平成16年以降では、最も多くなった。

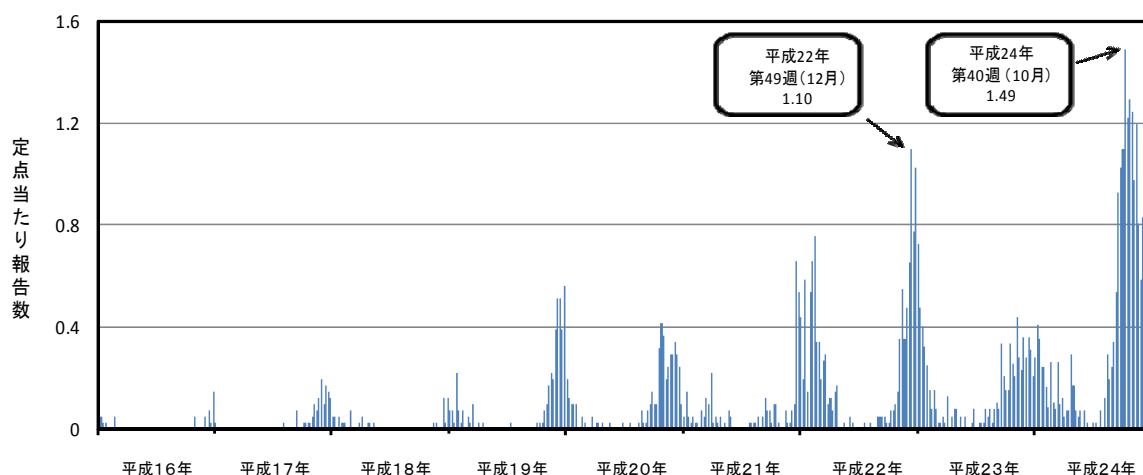
また、ピークの後も多い状態が続き、年次報告数も最多となった。

年齢階級別では、0歳（40.3%）、1歳（38.1%）で、1歳以下で約78%を占めた。

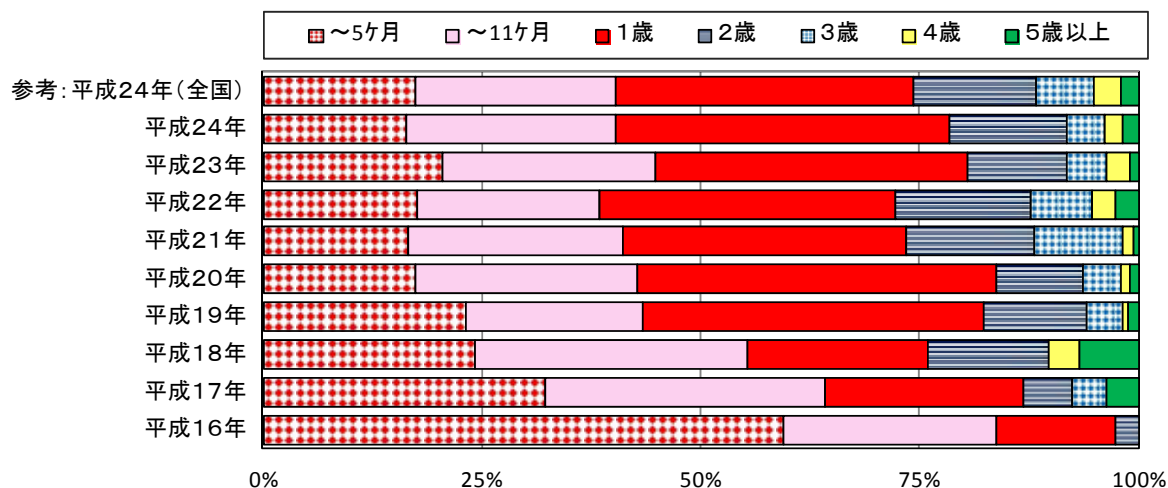
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の平成16年以降の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別割合

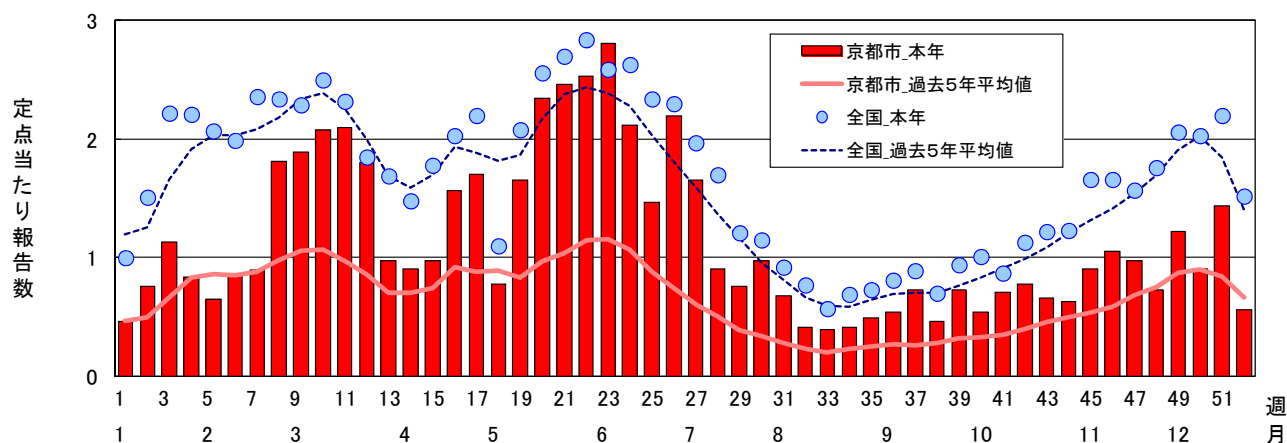


エ 平成24年 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎のまとめ

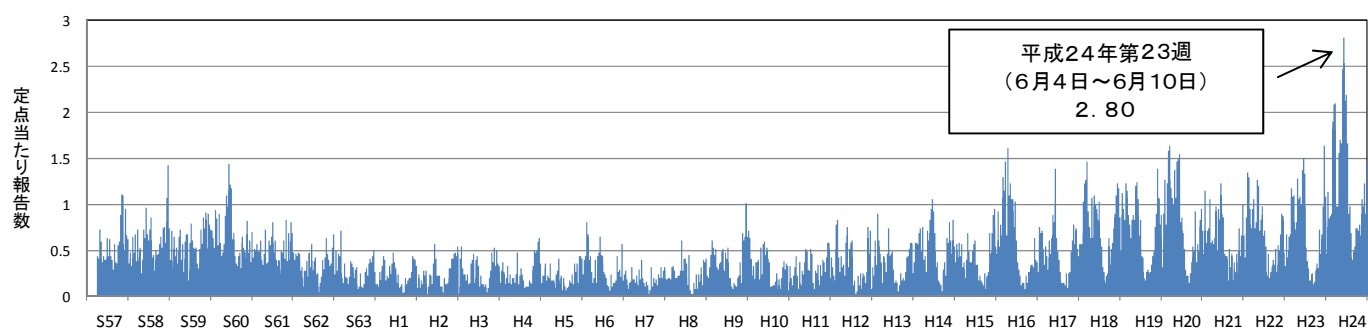
平成24年の定点当たり報告数は、第8週（2月20日～2月26日）以降、過去5年平均値を上回る状態が続いた（ゴールデンウィーク、年末を除く）。第23週（6月4日～6月10日）のピーク値（2.80）は昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降最も高くなった。

年齢階級別では、幅広い年齢階級からの報告がみられた。

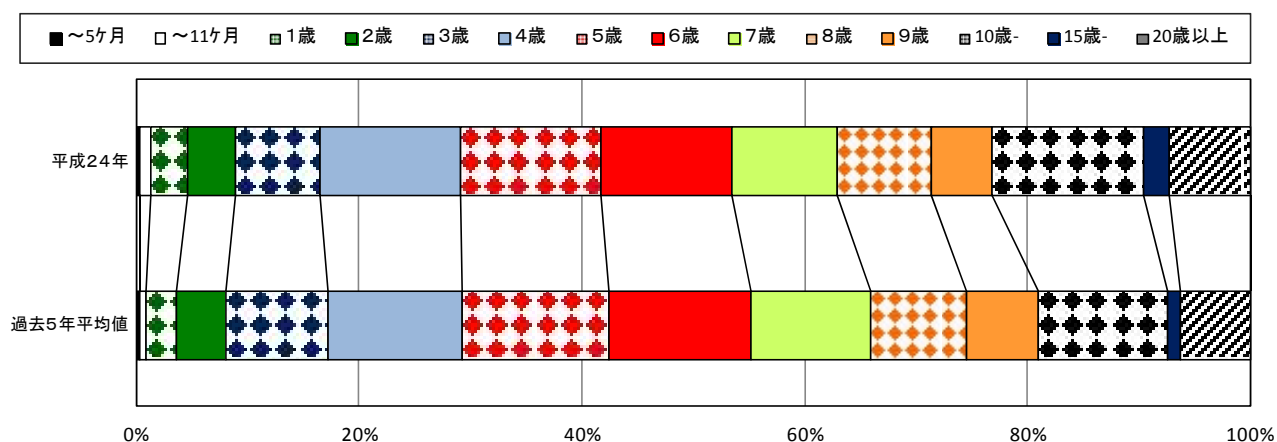
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の平成19年以降のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数の推移



京都市の年齢階級別割合



オ 平成 24 年 感染性胃腸炎のまとめ

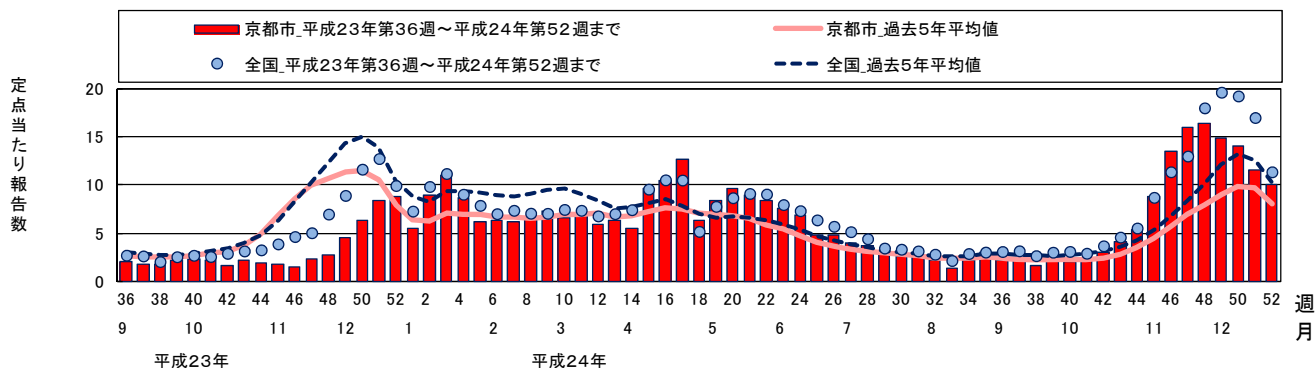
平成 23 年～平成 24 年シーズンの定点当たり報告数の推移は、立ち上がりが遅く、1 峰性の明確なピークは無かった。

また、平成 24 年～25 年シーズンは、第 41 週（10 月 8 日～10 月 14 日）から増加し始め、第 48 週（11 月 26 日～12 月 2 日）にピークを迎えた。このピーク値（16.37）は過去 5 年間で比べて、最も高かった。

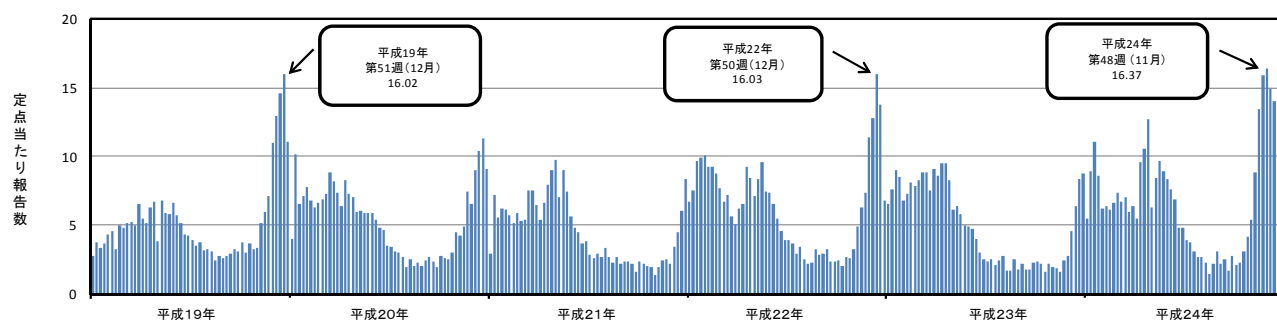
感染性胃腸炎の検体から検出したウイルスの推移では、平成 23 年～平成 24 年シーズンの平成 23 年 12 月～平成 24 年 3 月はノロウイルス GⅡが多く、平成 24 年 4 月～5 月はノロウイルス GⅠが多かった。平成 24 年～25 年シーズンの平成 24 年 10 月～平成 24 年 12 月はノロウイルス GⅡが多かった。

年齢階級別では、1 歳（16.8%）、2 歳（10.8%）、3 歳（9.2%）の順で、5 歳以下が 59.6%を占め、10 歳以上は 23.0%であった。

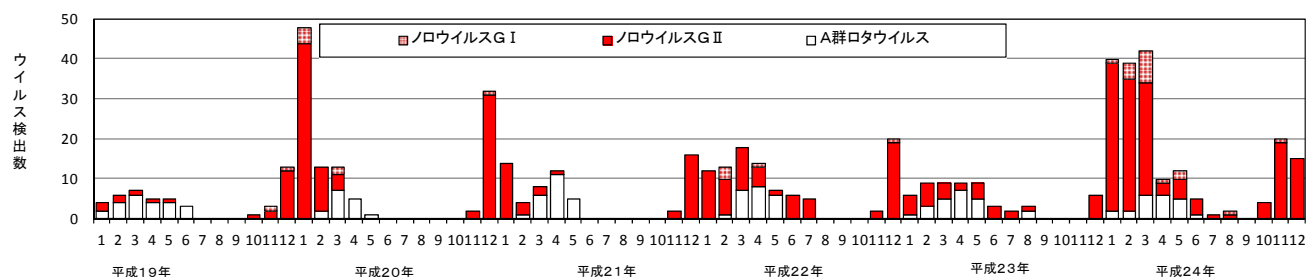
京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



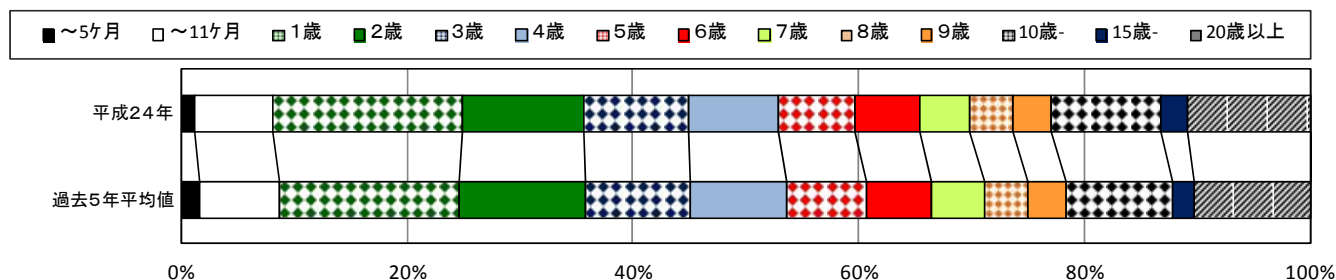
京都市の平成 19 年以降の定点当たり報告数の推移



京都市の平成 19 年以降の感染性胃腸炎の検体から検出したウイルスの推移



京都市の年齢階級別割合



カ 平成24年 マイコプラズマ肺炎のまとめ

平成24年のマイコプラズマ肺炎の年間報告数は、京都市では12例で、平成11年に感染症発生動向調査が開始されて以降、最も多かった。

全国でも、平成11年以降で最も多く、大きな流行となった。

京都市の年齢群別では、4歳以下が41.7%を占めた。

また、全国の年齢群別では、4歳以下が32.1%、5歳～9歳が31.5%、10歳～14歳が17.9%で、14歳以下が81.4%を占めた。

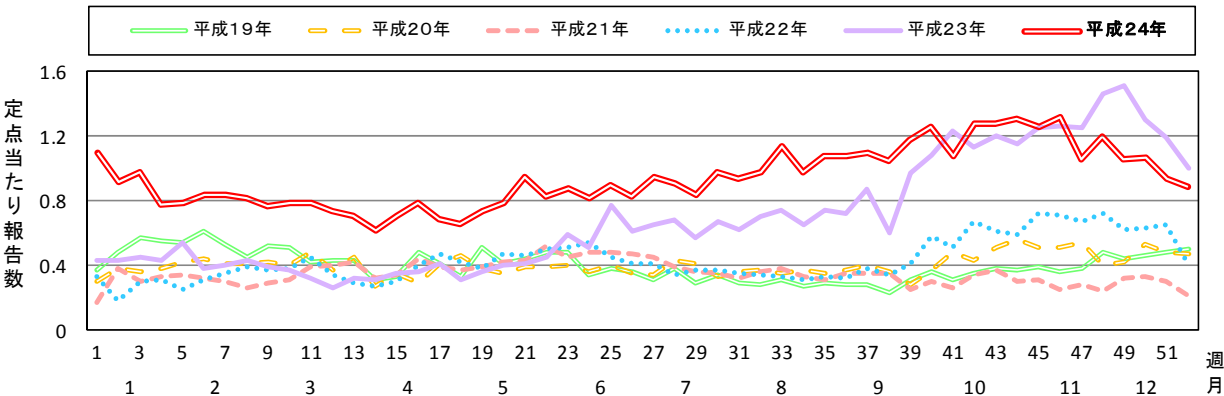
京都市の平成24年の報告

報告月	性別	年齢(歳)	報告月	性別	年齢(歳)
2月(第6, 7週)	女	4	8月(第34週 2例, 第35週 2例)	男	15
	男	1		男	22
4月(第17, 18週)	女	4		女	1
	女	6		女	7
5月(第19週)	男	2	10月(第40, 44週)	女	49
7月(第29週)	女	14		女	66

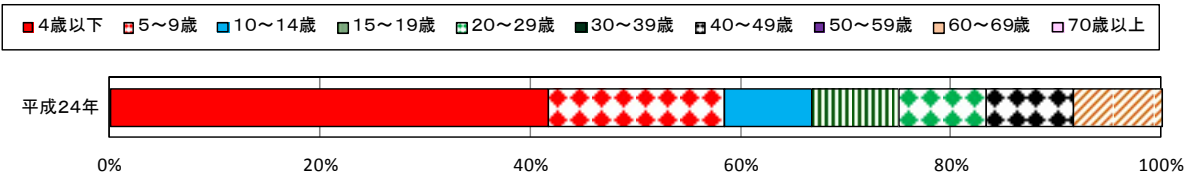
京都市及び全国の累積定点あたり報告数の年次推移

	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
京都市	1.00	1.00	6.00	11.00	9.00	5.00	2.00	11.00	4.00	2.00	-	-	3.00	12.00
全国	2.5	4.43	9.04	8.9	11.73	12.25	14.22	21.90	20.79	21.03	18.24	22.57	36.7	49.99

全国のマイコプラズマ肺炎の定点あたり報告数の推移



京都市の年齢群別割合



全国の年齢群別割合

